

食品業界のブランドメーカーとして新たな価値を創造

6334・東2

5月14日に18年3月期決算を発表。主要顧客である

製粉・飼料業界での業界再編に伴う設備改造や老朽化更新工事の需要並びに太陽光発電事業における分譲案件等の販売強化などにより増収を達成した一方で、大型工事案件の受注時期のずれや積極的に推進している人材育成等の投資費用が利益を圧迫し減益。創立120周年を迎える19年3月期予想は引き続き設備更新需要を見込むほか、太陽光関連事業でSPC(特別目的会社)組成を視野に入れた業務拡大並びに分譲案件等の組成において材料費・販売コストを厳格に管理することにより38・7%増収、経常利益では157・3%増と過去最高更新の見通し。

同社は食品産業・飼料プラントエンジニアリング等のトータルソリューションをメインに手掛ける企業。穀物の粉砕加工機のパイオニアでもある。更なる成長を見据え、解凍機・開袋機のマーケット拡大等積極的な営業活動の展開と採算管理の徹底や新市場開拓

などの重点施策に加え、IoTソリューション関連の開発をはじめ既存事業とのシナジー効果を狙ったガイナ(高機能セラミック塗料)等の高機能建材の提案型営業の強化等、時代のニーズに合わせた諸施策も継続的に実施。

主要セグメント毎に見ていくと産業機械関連事業では、製粉・飼料業界の設備更新需要だけでなく、近年需要が伸びているそば粉・米粉の各種設備建設や、リサイクル業界の粉砕品塩ビ選別設備など、新たな領域へ進出。加えて主力製品のロール機、開袋設備なども堅調に推移したが、大型案件受注の期ズレが影響し売上高は前期比20・1%減の38億4200万円、営業利益は同45・2%減の1億3700万円。太陽光関連事業についてはダイベロップ事業の販売が順調で、2018年3月末現在で販売用分譲案件は完売。売上高は同89・0%増の32億7100万円となった。利益面では施工時期の遅れや工期短縮にかかわるコスト増等が影響し、同82・2%減の1600万円。

DATA 明治機械

■2018年3月期	通期連結業績	前期比
売上高	71億5300万円	8.7%増
営業利益	1億7900万円	52.3%減
経常利益	1億9200万円	50.7%減
当期純利益	4億1100万円	17.5%増
■2019年3月期	通期連結業績予想	前期比
売上高	99億2100万円	38.7%増
営業利益	5億1100万円	185.5%増
経常利益	4億9400万円	157.3%増
当期純利益	4億1800万円	1.7%増